

1 駅前広場からみるへ

黒磯エリアの玄関口から、「新しい街の顔」へ



駅を出ると緑豊かな駅前広場が広がり、正面には図書館が迎えている。那須塩原市図書館みるる、駅前広場、駅前に広がるシェルターなどが新しいデザインで統一され、黒磯駅前は「新しい街の顔」として大きく生まれ変わった。駅前広場では、人々がバスを待ったり、市民イベントを開催したり、思い思いにピクニックなどで活用され、みるるホールと駅前広場を一体的に使ったイベントも開催される。新たな賑わいが広がっている。また、駅前広場からみるるを横断する「みるるAve」は市民や観光客の通り道として機能し、様々な人々が館に足を踏み入れ、学びのきっかけに触れている。夜には、みるるの木天井が、街の明かりとして駅前をしっかりと照らし出す。

2 館の正面エントランス

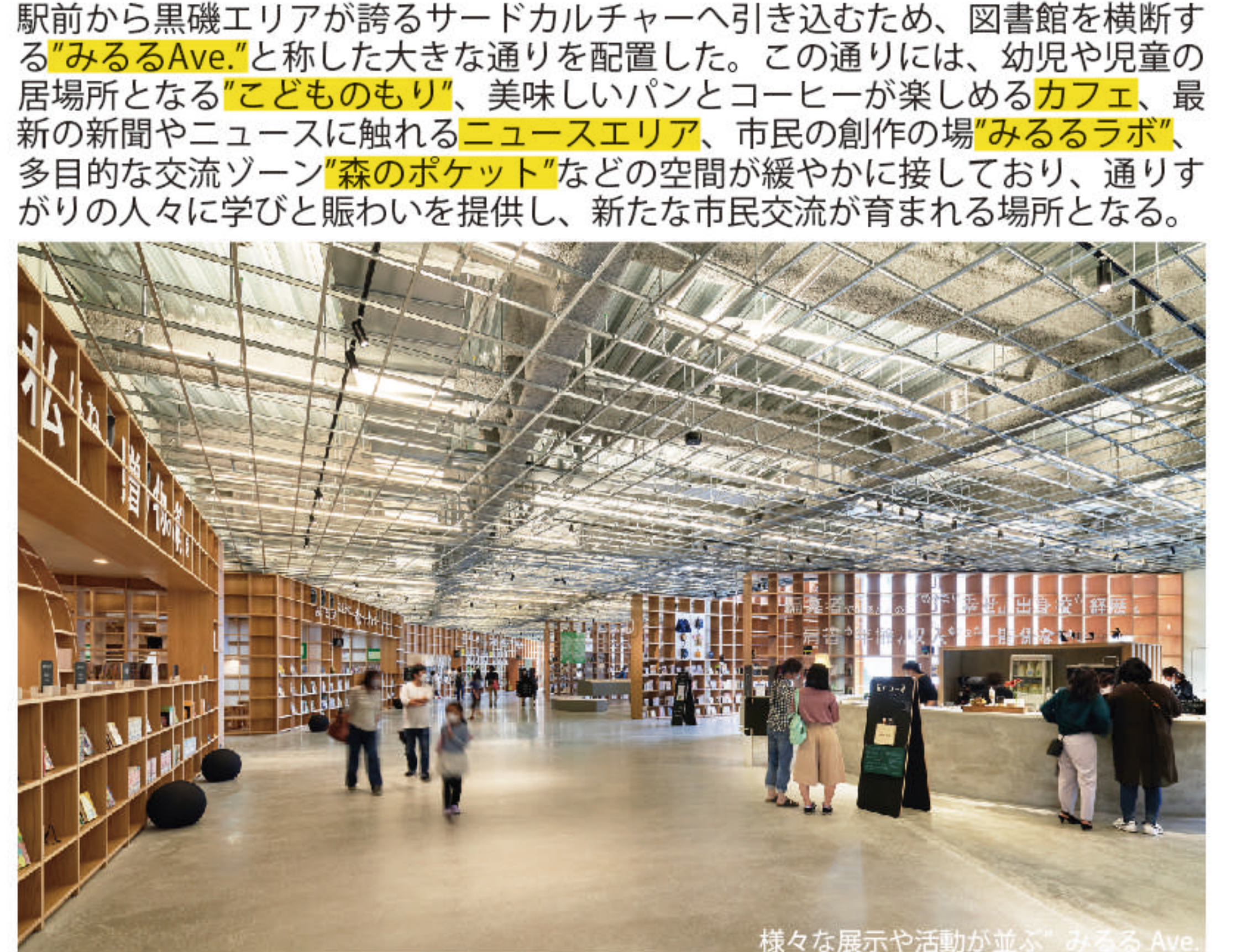
大階段が迎え入れる学びの館



駅前広場に面したメインエントランス。1階は「みるるAve」が奥へと続き、2階へは大階段が緩やかに繋がっている。階段の踊り場には駅前広場を見下ろすベンチスペースがあり、読書や談笑の場となっている。床の素材は、地場の大谷石骨材を混ぜた大谷石の蔵を思わせる佇まいとなっている。

3 みるるAve.

黒磯駅から街へと繋がる賑わいの通り道



駅前から黒磯エリアが誇るサードカルチャーへ引き込むため、図書館を横断する「みるるAve」と称した大きな通りを配置した。この通りには、幼児や児童の居場所となる「こどものもり」、美味しいパンとコーヒーが楽しめるカフェ、最新の新聞やニュースに触れる「ニュースエリア」、市民の創作の場「みるるラボ」、多目的な交流ゾーン「森のポケット」などの空間が緩やかに接しており、通りすがりの人々に学びと賑わいを提供し、新たな市民交流が育まれる場所となる。

4 フレキシブルな家具

みるるAve・森のポケットの家具



館内を通り抜ける「みるるAve」と「森のポケット」には、モジュールを揃えた3種類の高さ家具を用意した。自由にレイアウトを変えられるこの家具は、展示台やテーブル、椅子として利用者が使い方に合わせて様々な場所を作り出せる。来る度に様々なレイアウトに変化している1階の風景は、館内を日常動線として行き交う人々に、座ったり、話し込んだりすることを促し、気づきや学びのきっかけを与えてくれる。



5 みるるホール

様々な使い方を想定できる、開かれたホール

約100人を収容できる「みるるホール」には、可動の防音壁が設置されているため、ちょっとした音も気にせず利用できる。駅前広場と一体利用を想定して、外へ大きく開く開口を設け、賑やかな活動が街に染み出し、通りがかりの人にも気軽に参加してもらえる場所とした。壁面に映し出すプロジェクターや展示用レールも設え、市民勉強会や展示会など、多用途に対応できる構成としている。



6 カフェ

美味しいコーヒーに触れる新しい寄り道スポット

このカフェは、図書館の利用者だけでなく、市民や観光客など駅を利用する人々が一息つくことができる場所。カフェを囲む書架には、食やコーヒーを取り扱う雑誌が配架され、お店のこだわりのコーヒー豆や地元のアイスクリュームが購入できる。そんな「食」を楽しむ人が集まるカフェをイメージし、生まれた空間である。



7 ニュースエリア

世界と繋がる入り口

新聞を広げてゆったりと読める大きな新聞用カウンターを配置したほか、最新の経済雑誌などをチェックできたり、プロジェクターで世界のニュース映像に触れたり、世界の「今」を見つめることができる場所。地元の「新しいお店がオープン!」「紅葉シーズン到来!」など、ローカルニュースにも触れることができ、観光客へのPRにも一役担う。



8 こどものもり(児童図書)

那須塩原KIDSは、大人への階段を登る

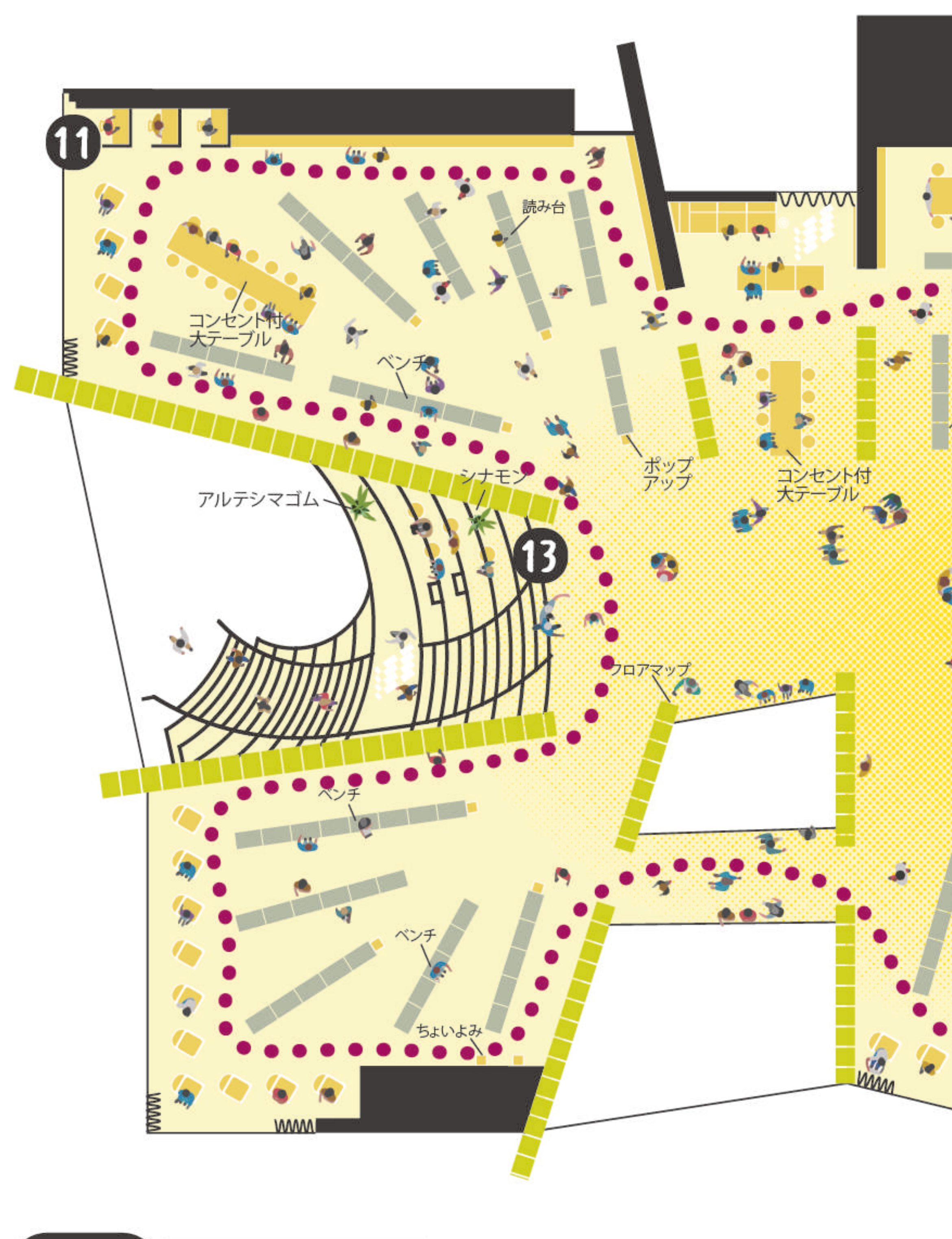
本棚に囲まれた親子で楽しめる「えほんのもり」は幼児向けの安全な図書スペース。天井まで伸びた大きな木の木が特徴的な「まなびのもり」は児童向けの図書スペース。中央の螺旋階段は、2階の図書スペースに繋がる本棚に囲まれた「森のポケット」。子供たちがベンチに腰掛け、少しずつ大人の本に触れて成長していく空間である。



9 図書スペース

静かで賑やかな図書館

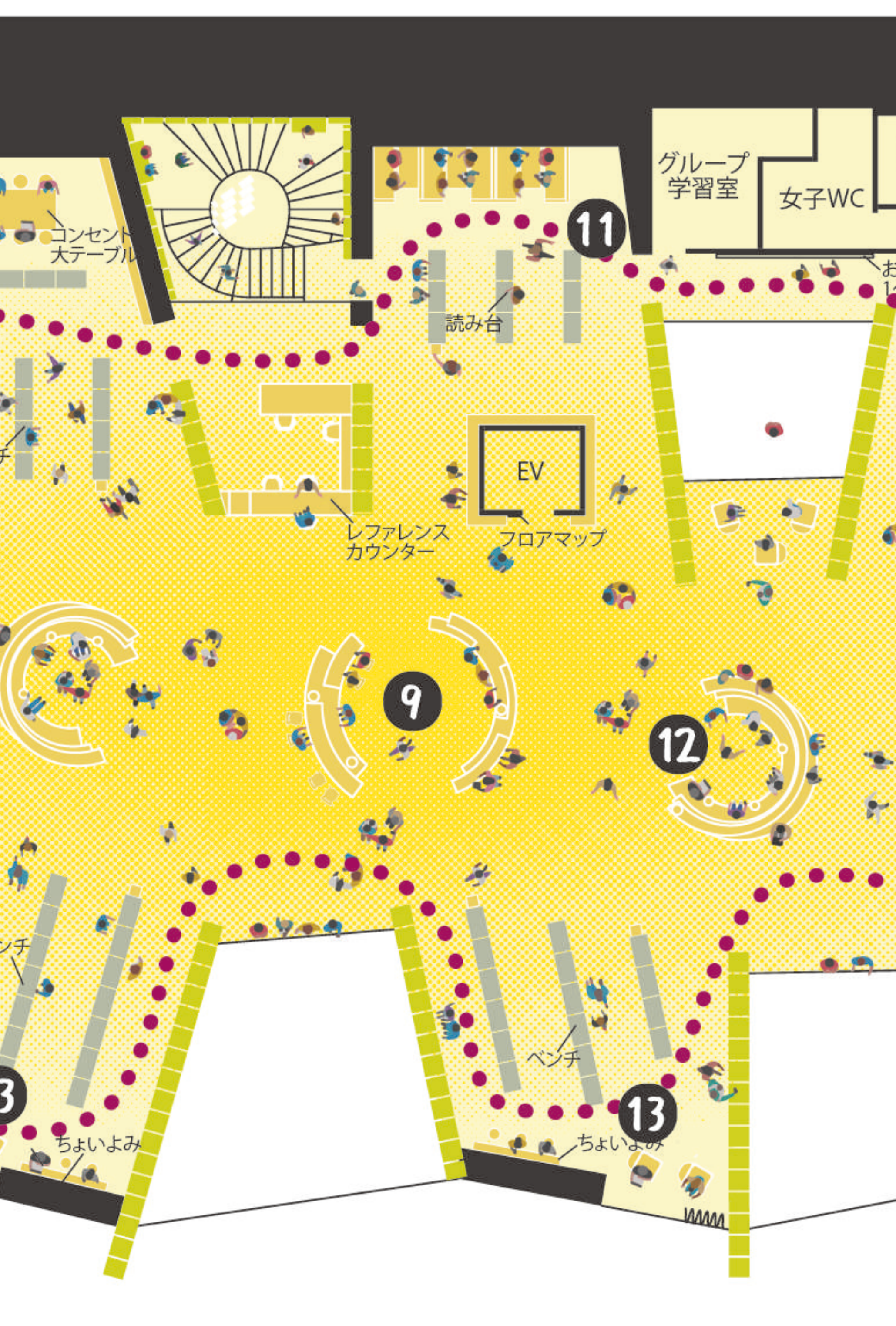
2階はリーフラインの下に広がる「森の中の図書館」。中央のブラウジングコーナーでは本を検索でき、低い本棚を放射状に配置しているため、見渡せば目的の本に辿り着くことができる。本棚の間を通り抜けてくると散策すれば、いろいろなジャンルの本が次々と現れ、思わぬ本との出会いが生まれる場所。



10 アクティブラーニングスペース

新しい学びが生まれる空間

2階への動線上にある床スペースは、中学生が中心となる体験型の学びスペース。学校の授業とは異なる学びや発見、新しい仲間とのコミュニケーションが生まれる。可動家具を用いて、様々なコミュニケーションの場が作れる。利用者の通り道にあり、道すがらに多世代の交流が生まれることを意図している。



11 学習スペース

勉強に集中してこめる様々な空間

外の音を遮って集中して勉強出来る独立したサイレントラーニングスペース。書架の奥の静かな場所には数人で話し合いながら利用できるグループ学習スペース。テーブルと椅子だけを設えた1人で集中できる個人学習ブースを設けた。



12 2階中央ベンチ

行き交う人々が自由な姿勢で過ごす空間

2階書架スペースの中央に置かれた円形のベンチは、ずれながら重なり合うことで様々なシーンに対応して自由な姿勢で使うことが促される家具となっている。思い思いに過ごす居場所を作り出している。



13 学びと触れ合う

様々な居場所

この図書館は、吹抜けから1階を見下ろしたり、外の景色を眺めたり、気ままに散策してみたり、館内を見渡せば、いろいろな場所でこれまで知らなかった活動や知識、交流に出会える場所になっている。思い思いの過ごし方ができる様に、たくさんの居場所を設けた。森の中を散策するように、発見や気づきの出会いが生まれることを意図している。

